

氏名 中村和生(なかむらかずお)

所属 附属総合研究所

職種 研究員

[履 歴]

[学 歴]

1988年 3月	東京都立保谷高等学校卒業
1989年 4月	東京都大学人文学部入学
1993年 3月	同上 社会学科卒
1993年 4月	明治学院大学大学院社会学社会福祉学研究科博士前期課程入学
1995年 3月	同上 修了
1995年 4月	明治学院大学大学院社会学社会福祉学研究科博士後期課程入学
1999年 3月	同上 満期 単位取得退学
2015年 1月	博士号取得 (明治学院大学)

[学 位]

博士 (社会学)

[職 歴]

1999年 4月 1日	明治学院大学非常勤講師社会学部 (2002年3月31日まで)
2000年 4月 1日	清泉女子大学非常勤講師文学部文化史学科 (2010年3月31日まで)
2002年 9月 1日	武蔵工業大学 (現東京都市大学) 非常勤講師環境情報学部 (2010年3月31日まで)
2003年 4月 1日	明治学院大学非常勤講師社会学部 (2006年3月31日まで)
2005年 4月 1日	一橋大学非常勤講師社会学部 (2005年9月30日まで)
2007年 4月 1日	明治学院大学非常勤講師社会学部 (2010年3月31日まで)
2010年 4月 1日	青森大学社会学部専任講師
2013年 4月 1日	青森大学社会学部准教授
2023年 4月 1日	青森大学附属総合研究所准教授 現在に至る

[所属学会]

日本社会学会、関東社会学会、保健医療社会学会、エスノメソドロジー&会話分析研究会

[教育活動]

[担当科目] (2021年度前期まで)

社会学理論 I・II、文化社会学、行動調査法、知識と科学の社会学、哲学、

社会学演習 III・IV・V・VI

[卒業研究指導]

2021年度:5名、2020年度:5名、2017年度:3名、2016年度:3名、2014年度:5名

[ゼミ指導]

2021 年度:5 名(3 年生)、2020 年度:5 名(3 年生)、2019 年度:5 名(3 年生)、
2018 年度:7 名(2 年生)、2017 年度:13 名(3 年生)、2016 年度:13 名(3 年生)、
2015 年度:25 名(2 年生 9 名・3 年生 16 名)

[研究活動]

[研究テーマ]

- ・ 相互行為能力のエスノメソドロロジー的解明
- ・ 多様な専門実践のエスノメソドロロジー的解明
- ・ 初等・中等教育の理科教育における「自然(現象)の科学的理解」の相互行為分析

[著書、論文、総説]

[著書]

- 1, 2015 年 1 月『ポスト分析的エスノメソドロロジーの展望と展開——科学実践の理解可能性の探究——』(博士論文)(明治学院大学)
- 2, 2016 年 4 月『概念分析の社会学 2—実践の社会的論理—』酒井泰斗・浦野 茂・前田泰樹・中村和生・小宮友根(編)(第 8 章「素朴心理学から Doing sociology へ——記述の下での理解と動機のレリヴァンス——」(共著:中村和生・森一平・五十嵐素子)、ナビゲーション 3)
- 3, 2017 年 2 月『ワークプレイス・スタディーズ:働くことのエスノメソドロロジー』水川喜文・五十嵐素子・秋谷直矩(編)(第 3 章「「不十分な」助言の十分な達成——電話相談における〈助言者-相談者〉という装置」)
- 4, (翻訳)2012 年 10 月, マイケル・リンチ『エスノメソドロロジーと科学実践の社会学』勁草書房(監訳:水川喜文・中村和生)
- 5, 2023 年 3 月『実践の論理を描く』小宮友根・黒嶋智美(編)(第 4 章「科学について実践的に考える——論理文法分析を道標として」)(共著:中村和生・水川喜文・五十嵐素子)

[論文]

- 1, 2015 年「分析的エスノメソドロロジーとポスト分析的エスノメソドロロジー」『社会学・社会福祉学 研究』144 号(明治学院大学社会学部)
- 2, 2016 年「保健医療の実践のエスノメソドロロジー&会話分析研究——録音・録画メディアの利用と臨床への介入的貢献——」(共著:中村和生、海老田大五郎)『保健医療社会学会論集』第 27 号 第 1 巻

3, 2017年「分析的・ポスト分析的エスノメソドロジー、あるいは概念分析」『現代思想』第45巻第6号

4, 2018年「当事者研究におけるファシリテーター・当事者の実践——共成員性とカテゴリー対を中心に——」(共著:中村和生、浦野茂、水川喜文)『保健医療社会学会論集』第28巻第2号

[学会発表]

1, "Being facilitator and co-member in a self-directed research of people with mental disabilities," (Co-authors: Kazuo Nakamura, Shigeru Urano, Yoshifumi Mizukawa), 4th, July, 2016, Atypical Interaction Conference (University of South Denmark, Denmark)

2, "Scientific Knowledge and Reasoning in the Experiments of Elementary School Classrooms: Instruction in Local Educational Order" (Authors: Yoshifumi Mizukawa, Kazuo Nakamura, Motoko Igarashi / Presenter: Yoshifumi Mizukawa), 3th, July, 2019, International committee of Ethnomethodology and Conversation Analysis (University of Mannheim, Germany)

3, 「科学と技術の関係性は学習されるのか?——初等教育における理科実験を題材として——」2019年10月6日第92回日本社会学会大会(於東京女子大学)(登壇者:中村和生、共同発表者:水川喜文・五十嵐素子・東徹)

4, 「教育実践における科学的知識と科学的推論の学習過程——小学校理科の授業を例とした一考察」2019年10月6日第92回日本社会学会大会(於東京女子大学)(登壇者:水川喜文、共同発表者:中村和生・五十嵐素子・東徹)

[学内各種委員]

総研カフェ実施担当